

<b>議題</b>	<b>第 20 回運営推進会議</b>
<b>日時</b>	2026 年 2 月 19 日(木) 10:30～11:15
<b>場所</b>	デイサービス若芝 2F 和室
<b>出席者</b>	(順不同敬称略) 芝本町民生委員 Y 様 ご家族 M 様ご主人様、KB 様妻、KN 様息子 三島市北包括 O 様 デイサービス若芝統括 W デイサービス若芝主管 U デイサービス若芝管理者 M (議事録作成者) W (議事進行者) W
<b>会議の詳細</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ごあいさつ (統括 W)</li> </ul> <p>～出席者のご紹介、本会議の趣旨 (目的) について～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● デイサービス若芝の現況 (統括 W)</li> <li>● 事業所としての取り組み (主管 U)</li> <li>● デイサービス若芝の活動 (主管 U) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 写真をみていただきながらの活動報告</li> <li>・ 個別の活動をいろいろと考えて実施していることを説明</li> </ul> </li> </ul> <p><b>議題</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運営状況報告</li> <li>2. 活動報告(令和 7 年 9 月～令和 8 年 2 月)</li> <li>3. 認知症基本法および新しい認知症観について</li> <li>4. 家族意見交換・地域課題の共有</li> </ol> <hr/> <p><b>議事内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運営状況報告</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定員 10 名</li> </ul>	

- ・登録者数 29 名
- ・1 日平均利用者数 約 9 名
- ・要介護 1 の利用者が中心
- ・関連事業所(山風木・井福来)と一体運営
- ・令和 7 年度三島市実地指導にて指摘事項なし

商店街立地を活かし外出機会を確保していること、山風木との一体運営により人員・環境の相互活用を行っていることを報告した。

ICT 活用による業務効率化を進め、実サービスへ還元していることも説明した。

---

## 2. 活動報告(令和 7 年 9 月～令和 8 年 2 月)

- ・ご当地企画の実施
- ・いろは喫茶企画開始
- ・初詣(三島大社)
- ・楽寿園菊まつり外出
- ・散歩(源兵衛川、梅見学等)
- ・干し柿作り
- ・生け花活動
- ・トランプ、ジェンガ等のレクリエーション
- ・ケーキバイキング
- ・誕生日会開催
- ・広報誌発行、ブログ更新

写真を提示し、利用者が役割を持ちながら活動している様子を共有した。  
家族より「外出時の様子を楽しそうに話していた」との感想があった。

---

## 3. 認知症基本法および新しい認知症観について

令和 6 年施行の認知症基本法について説明。

- ・認知症を特別視せず「私ごと」として捉える社会づくり
- ・本人の意思や役割を尊重

・地域で支える体制構築

認知症専門医の見解として、

- ・困った行動には要因がある
- ・否定や訂正を強めすぎない
- ・こだわりが強い場合は第三者の力を活用
- ・感情に同調する姿勢
- ・介護者の負担軽減も重要

以上を共有した。

---

#### 4. 家族意見交換・地域課題共有

##### M 様ご家族

妻が長年化粧品代理店を経営していたが、活動終了後は何もせず過ごす時間が増えた。

現在は週1回3万円を家計費として預け、金銭管理を役割として継続している。

1週間ごとに収支管理を行い、残金は本人の小遣いとしている。

金銭計算能力は維持されており、お金を大切に扱う姿勢が継続している。

夕方以降「家に帰る」と言い外出しようとする事があった。

→ 役割付与が自尊心維持につながっている事例として共有した。

---

##### KB 様ご家族

この半年で急激にADL低下。

更衣・入浴は家族2名介助が必要。

夕方以降に焦点が合わず、落ち着きなくなる。

夜間頻回トイレにより介護者が睡眠不足。

玄関マットセンサーを導入。

「ここが自宅ではない」と混乱する発言あり。

体力低下が著明。

仕事との両立に不安がある。

→ 夜間対応が家族の健康に影響している現状を共有。

---

### **KN 様ご家族**

実家や亡くなった家族の話が頻回に出る。

家系図を作成したが、逆にそれに執着。

息子を亡き夫と誤認する場面あり。

夜間に実家へ帰る支度を始める。

同じ質問の繰り返しにより家族が精神的に疲弊。

「嘘も方便」との対応に葛藤あり。

ショートステイ利用を開始。

→ 第三者介入により落ち着く場面があるとの共有。

---

### **民生委員**

実母の在宅介護経験を共有。

骨折・脳梗塞を経て要介護 4。

泊まり利用を段階的に導入し負担軽減。

プロへ任せることの重要性を実感。

家族が健康でいることの大切さを強調。

---

### **包括支援センター職員**

家族の葛藤は自然な感情。

正解はなく、その都度折り合いを探る必要がある。

第三者介入の有効性を改めて共有。

---

## 地域課題として見えた点

- ・夜間対応による家族の慢性的睡眠不足
- ・夕暮れ症候群への対応
- ・役割喪失後の活動低下
- ・家族の精神的孤立
- ・泊まり利用への心理的ハードル
- ・仕事と介護の両立問題

## 今後の対応方針

- ・役割活動の継続と強化
- ・家族への定期的な声掛け
- ・泊まり利用・ショートステイ等の選択肢提示
- ・包括・民生委員との連携継続
- ・認知症理解の啓発継続

## 次回開催予定

令和8年8月予定

以上、運営推進会議議事録とする